

法科大学院開設に向け いよいよ認可申請へ



▲岩井 宜子教授

本学は、建学以来の法学教育の伝統を受け継ぎながら時代が求める法曹教育を行うため、法科大学院構想を推進してきた。具体的には開設委員会を設置し、設置趣旨、カリキュラム、教員体制等、法科大学院の概要を検討してきた。このほど、その概要がまとまり、6月24日(火)に文部科学省へ法科大学院の設置申請を行うことになった。そこで開設委員会副委員長の岩井宜子教授に、本学法科大学院の詳細を伺った。

どんな法曹養成を目指しますか

現在の法曹教育ではいろいろな社会問題に対処するのに十分な数の法曹が養成できないことや、裁判官や検察官に社会のさまざまな法律問題と少し遊離している部分があるのではないかとといった批判がありました。そこで本学としては、基本的な法知識をきちんと持って法的分析能力や幅広い教養を備えた「社会生活上の医師」ともいえる市民生活に根ざした法曹を養成したいと考えました。

入学定員は

未修者の3年制の入学定員は25人(程度)、既修者の2年制の入学定員は50人(程度)と合わせて入学定員は75人になります。

カリキュラムは

まず1年次には六法を中心とした「法律基本科目」を学び、法学未修者にはここで法をきちんと体系的に理解し、法的素養を身につけてもらいます。その後、2年次からは基礎法学や隣接科目に加え、法律基本科目に関する演習科目を用意し、それぞれが基礎知識を深め、問題解決の思考能力を高める教育を行います。さらに、これら基幹科目のほかに、民事関係、刑事関係、企業法務関係、知的財産関係、渉外法務関係、コミュニティーサービス関係など各分野に特化した「展開・先端科目」を数多く開設し、実践的な素養を身につけ、専門分野、得意分野を履修できるようなカリキュラムになっています。



▲5月15日に神田キャンパスで行われた学内説明会

授業形態は

半期ごとのセメスター制を採用し、授業時間は90分、必ず15週を確保することになります。

教員 スタッフは

本学の教授陣、現職弁護士ほか公証人(裁判官出身、検察官出身)、派遣裁判官、派遣検察官、企業の法務部で特許出願を専門に取り扱ってきた方がラインナップされています。

施設設備は

現在、新しく(仮称)神田8号館を建設中で、12月に完成します。都心のJR水道橋駅やいくつもの地下鉄が利用できる立地条件も魅力です。学生の自習室には長時間利用可能な個人専用キャレル、法廷教室及び図書室と情報端末室を1フロアに集約し、学生の学習効率を最大限に引き出せるよう配慮しました。また1階に附属のローファーム(法律事務所)を設置します。

入学選考は

まず統一適性試験を受けなければなりません。この適性試験は、大学入試センターと日本弁護士連合会の2つの団体がそれぞれ実施します。日弁連の方は8月3日(日)、大学入試センターは8月31日(日)で、どちらも本学の神田キャンパスが試験会場として指定されました。本学の場合、どちらの適性試験を受けてもよいことになります。出願にあたっては、統一適性試験の成績と出身大学の成績、社会活動に関する内容などを記入した申請書類を提出してもらいます。さらに、既修者として受験する場合、日弁連が11月16日(日)に実施する「法科大学院既修者試験」を受けてもらいます。次に本学独自の入学試験を実施します。未修者には小論文試験、既修者には民法を必須

とし、憲法、刑法、商法から1科目選択の計2科目の論述試験を受けてもらいます。さらに面接を行い、合格者を決定します。(なお、入試方法については今後変更される場合がありますので、本学のホームページを注視願います)

学費は

学費は年間150万円から200万円の範囲内となるよう、現在調整中です。とはいえ、かなりの経済的負担になりますので、できるだけ学生支援体制を充実させていきたいと考えています。

[6月15日/ニュース専修1面]

31人が難関突破 司法試験第2次試験短答式 私立16位、全大学では29位

超難関といわれる三大国家試験の一つ、03年度司法試験第2次試験短答式試験合格者が6月4日(水)法務省司法試験管理委員会から発表された。

本学からは553人(昨年486人)が出願し、31人が難関を突破した。順位では私立大学では16位、国公立大を含めた全大学では29位となっている。

本学の合格者31人には、エクステンションセンター主催の司法試験受験対策講座を受講している現役生2人(3、4年次各1人)を含んでいる。

このあと試験は7月に論文式、10月に口述試験が行われ、最終合格者が決定する。

今年の結果を見ると、全体の受験者数は過去最高の4万5360人(昨年4万1449人)を記録。合格者数も昨年を上回る6986人(同6457人)となったが、合格率は過去10年間で最低の15.4%だった。

合格者の年齢構成を見ると、最高年齢者は63歳、最低年齢者は20歳で、平均年齢は28.82歳となっている。

[6月15日/ニュース専修1面]

キャンパス探訪〈8〉アートの旅



今月号から「キャンパス探訪」は、学内に展示されている絵画や彫刻など芸術作品を紹介する「アートの旅」としてスタートします。

生田キャンパス図書館分室前の中庭に女性ブロンズ像が配され、学生の美意識を刺激し、潤いを与える。その中から2像を紹介する。

1991年(平3)9月に設置された「若葉」(左、高さ173センチ)は、創型会の彫刻家・入江勇氏の制作。初々しさと未来への夢と期待が混在する若い女性の水着姿のブロンズ像で、題名「若葉」は仲川恭

司文学部教授が揮毫した。

もうひとつ「リボンの女」(右、高さ144センチ)は、日彫展の彫刻家・南條兼男氏の作品で、94年(平6)12月に設置。首にリボンを巻いておしゃれ心と含羞をたたえた裸婦像が初々しい。

生命、若さ、夢、期待といった青春の源泉がテーマになっている。眺めていて心が和む。

[6月15日/ニュース専修1面]